

# Webコンテンツのリスク増大に対応する サイトクローン監視ツール

(株) シンメトリック 代表取締役

坂田 和敏 氏

## ① 金融機関の Web システムで 普及し始めた JavaScript

スマートデバイスの普及に伴い、Web コンテンツはブラウザ上で動作する JavaScript の利用が増大している。これまで高いセキュリティ要件を課されている金融機関のシステムでは、JavaScript の利用はハッキングのリスクや保守性の観点から敬遠されてきた。しかし、ユーザーの利便性向上や Java などよりも相対的な保守コストの低さから、金融機関においても JavaScript の利用が増えてきている。

## ② Web コンテンツは目視確認しかない

金融機関における JavaScript の利用シーンとしては、株価などのリアルタイム情報のグラフ表示、ローンや保険のシミュレーション、スマートデバイスのフォーム入力補助など、様々な場所で利用され始めている。もしこれらの動作に不具合があって、グラフが間違っている、シミュレーション金額が違う、フォームが送信できない事などが起きれば、その代償は非常に大きくなってしまふ。ただ、これらの不具合はサーバー監視では発見できないので、目視確認という人手に依存した方法しかない。

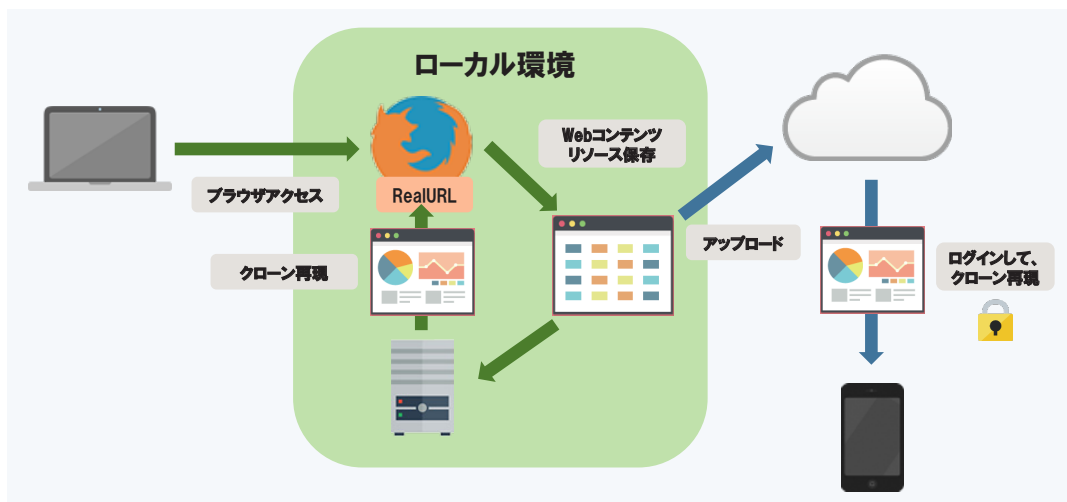
## ③ Web コンテンツは再現が困難

Web コンテンツの問題の解決でも、問題を再現し、その再現環境で修正確認することが本来必要である。ところが、セキュリティ確保の仕組みが URL (SSL や Ajax) と紐づいているために、本番同様の Web コンテンツを再現することが困難である。特に金融機関などにおいてセキュリティ対策が強力であるほど、その傾向が高まり、安全性を高めると問題解決が困難になるというジレンマを抱えている。

## ④ Web コンテンツを再現し再取得する サイトクローン

サイトクローンは、本番環境と切り離されたローカル環境で同一 URL のまま Web コンテンツを完全に再現することで、このジレンマを解決する。再現したクローンコンテンツを利用して本番に影響を与えずに調査や修正確認を可能にする。更に、シナリオ監視として、以前のアクセス情報に従って自動再リクエストし、以前と現在の Web コンテンツの比較をすることが可能である。

サイトクローンを使うことで、今後金融機関でも、益々利用が増える JavaScript を多用した Web コンテンツに対し、より確かな保守運用ができるようになるだろう。



SITECLONE システム構成